

伊達政宗公 誕生450年  
シリーズ 第十一回

# 現在も息づく「西国の伊達」 —宇和島編—

仙台市教育委員会文化財課 荒井 聡



## 秀宗誕生

仙台藩祖伊達政宗の長男秀宗は、天正19年（1591年）、陸奥国柴田郡の村田城で生まれました。幼名を兵五郎、母は側室新造の方で、政宗の後継ぎとして伏見の豊臣秀吉の下で養育され猶子（注）となりますが、実質的には人質だったといわれています。

慶長元年（1596年）の元服時に、秀吉の一字をもらって「秀宗」と名乗ります。その後大坂に移り、秀吉の子の秀頼の遊び相手も務めました。

しかし、慶長4年（1599年）、政宗と正室愛姫との間に嫡男虎菊丸（後の忠宗）が誕生し、関ヶ原の合戦で勝利した徳川の世となると、豊臣家と関係の深い秀宗の扱いが伊達家にとって大きな問題となりました。



▲宇和島城天守閣（愛媛県宇和島市）。現在の城郭は、2代宗利が寛文年間（1661～72年）に修築したもの

## 宇和島藩祖秀宗

大坂冬の陣が終わった慶長19年（1614年）12月、秀宗は伊予国宇和島10万石を与えられて独立。翌年3月に板島丸申城（後の宇和島城）に入城し、仙台の「東国の伊達」に対する「西国の伊達」が誕生しました。政宗は五十七騎と称される家臣を秀宗に伴わせ送り出しましたが、宇和島藩の政治に介入することがあり、政宗と秀宗の間は必ずしも良好ではありませんでした。

元和6年（1620年）、政宗が伴わせた老臣山家清兵衛が、政宗の知ることなく成敗されるという事件が起きました。激怒した政宗は、幕府に宇和島10万石の返上を申し出るとともに、秀宗に3年の絶縁を申し渡しましたが、その後1年ほどで絶縁を解いたと伝えられています。その後は和歌を通じた交流や政宗から名香「柴舟」や茶器を贈るなど、穏やかな関係が続きました。

## 今に続く関係

寛永13年（1636年）5月24日、政宗は江戸でその生涯を閉じます。秀宗



▲宇和島地方に350年余り受け継がれるハツ鹿踊り（写真提供：裏町一丁目ハツ鹿保存会）

は、6月23日に仙台の覚範寺で営まれた政宗の葬儀に参列したともいわれています。万治元年（1658年）6月6日、秀宗も江戸で亡くなります。

それから350年余り。宇和島には、7代宗紀が造営した庭園「天赦園」が今も残ります。この名前は、政宗が詠んだ漢詩「醉余口号」に由来します。

平成27年には、宇和島市で秀宗入部400年記念の行事が大々的に行われ、仙台から訪れた川前（青葉区芋沢）の鹿踊・剣舞保存会が鹿踊を披露。一方、仙台市博物館では特別展「宇和島伊達家の名宝」を開催し、「民俗芸能のつどい」を実施。宇和島市から裏町一丁目ハツ鹿保存会が来仙し、仙台から伝わったとされる鹿踊を披露しました。また昨年、仙台・青葉まつりには、宇和島伊達家13代当主の宗信氏が時代行列に参加するなど、政宗と秀宗の絆は、400年の時を超えて、今もさまざまに形を息づいています。

※注 親類や他人の子を自分の子とすること  
●本稿では、学術研究の立場から、歴史上の人名に敬称を付していません